浜松医科大学 財務レポート 2011

第7期事業年度（平成22年度）
2010年4月1日～2011年3月31日

浜松医科大学は、

1）優れた医療人を養成すること**（教育）**
2）独創的で世界の最先端研究の拠点になること**（研究）**
3）最善･最高の医療を提供し地域医療の中核的役割を果たすこと**（診療）**
4）産学官連携など,大学が持つ「知」を社会へ提供、還元すること**（社会貢献）**

を使命とし、「教育」、「情報･広報」、「総務」、「研究推進」、「経営」、「病院運営」及び「調査･労務」の7つの企画室を設置し、4名の理事及び3名の副学長を中心に中期目標･中期計画に沿って事業の企画立案を行っています。

今後についても「多様な資金の確保」、「経費の効率的な使用･管理経費の抑制」、「有効な資源の配分」を推進し、教育、研究、診療及び社会貢献等の質の向上に取り組み、社会に期待される大学を目指していきます。

ごあいさつ

浜松医科大学長
中村 達

第2期中期目標期間に入り、体制が代わって1年余が経過しました。平成22年度の決算が終わり、文部科学省へ決算報告を提出しました。その圧縮版を財務レポートとして皆様にもご報告するものです。

平成21年度末から平成22年度にかけて引き続く事業がたくさんありました。

主な事業をあげますと、教育に関するものでは、医学科定員増に伴う設備の充実のために顕微鏡等を揃え、学生食堂は定員が増加しても整備していなかったため喫茶コーナーを整備し、課外活動用部室には雨が漏り清潔感がなかったところを新設して快適に課外活動ができるようにしました。

研究に関する事業では、産学官連携拠点推進事業の一つとしてサイクロトロン棟の新設、基礎臨床研究棟のB1階の実験実習機器センター、6階の子どものこころの発達研究センター及び大阪大学・金沢大学との連合大学院教室の整備、基礎臨床研究棟の2階、8階及び動物実験施設に分散していたRI研究施設をすべて動物実験施設内のRI実験施設に集約しました。集約と整理により無駄なスペースが減っていくと思います。おかげさまでB1階の実験実習機器センターは素晴らしく誇れるほどに様変わりしました。

診療に関しては、PET−CT棟の新設、3テスラMRIの導入、医師・看護師等の増員及び待遇改善を進めてきました。
まだまだ整備しなければならないところがたくさんあり、教育・研究等重要な順に整備する予定です。

大学経営には外部資金の獲得が不可欠です。平成23年度科学研究費補助金の申請において職員の皆さんのご協力をいただき、アドバイスサービス等の努力の結果、採択率が向上し、もちろん獲得額も上がりました。そういった中で、今後はインセンティブを考慮して研究費や学生支援に力を注ぎたいと考えております。

東日本大震災からの復興へ国を挙げて取り組む時であり、今後は補助金等の減額の可能性もあって経営が苦しくなることが予想されますが、上を向いて頑張って行きたいと考えておりますので、ご協力とご理解を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

貸借対照表 要約

決算日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。
借入金等の負債と国からの出資等の純資産による土地、建物等の資産をもとに教育、研究、診療の業務活動を行っています。

（単位：百万円）

資産の部	22年度	21年度	増減(22-21)
土地	6,489	6,489	—
建物	20,342	20,126	216
構築物	292	311	▲19
工具器具備品	5,455	6,088	▲633
図書	999	988	10
その他有形固定	11	13	▲2
建設仮勘定	174	279	▲104
無形固定資産等	155	157	▲2
固定資産　計	33,920	34,454	▲534
現金及び預金	4,869	6,666	▲1,796
未収入金 ※1	2,628	2,567	60
たな卸資産	209	166	43
その他	31	31	—
流動資産　計	7,737	9,431	▲1,694
資産合計	41,657	43,886	▲2,228

負債の部	22年度	21年度	増減(22-21)
資産見返負債 ※2	3,452	3,282	169
借入金	17,961	18,742	▲781
リース債務	939	1,449	▲509
運営費交付金債務	208	—	208
寄附金債務	1,590	1,375	215
前受受託研究費等	324	402	▲77
未払金 ※3	2,183	3,885	▲1,701
預り金･その他	419	869	▲450
負債合計	27,079	30,007	▲2,927

純資産の部	22年度	21年度	増減(22-21)
資本金	5,317	5,317	—
資本剰余金	4,728	4,409	318
利益剰余金	4,532	4,152	380
(うち当期未処分利益)	724	797	▲73
純資産合計	14,578	13,878	699
負債･純資産合計	41,657	43,886	▲2,228

【資産】

平成22年度末の資産合計は、前年度比2,228百万円(5.1%)減の41,657百万円となっています。

主な増加要因としては、建物がRI動物実験施設耐震改修工事、サイクロトロン棟新営工事、PET-CT棟新営工事等により216百万円(1%)増の20,342百万円となったことが挙げられます。

主な減少要因としては、現金及び預金が附属病院再整備事業の長期借入金の減少に伴い1,796百万円(27%)減の4,869百万円となったこと、建設仮勘定がRI動物実験施設耐震改修工事等の竣工により建物に振替となり、104百万円(37%)減の174百万円となったことが挙げられます。

【負債】

平成22年度末の負債合計は2,927百万円(10%)減の27,079百万円となっています。

主な要因としては、未払金が1,701百万円(44%)減少し2,183百万円となったこと、借入金が返済等により781百万円(4%)減の17,961百万円となったことが挙げられます。

【純資産】

平成22年度末の純資産合計は699百万円(5%)増の14,578百万円となっています。

主な要因としては、資本剰余金が施設費及び前中期目標期間繰越積立金による建物の取得等により318百万円(7%)増の4,728百万円となったこと、利益剰余金が積立金の次期中期目標期間への繰越等に係る会計処理において前中期目標期間繰越積立金の積立を行い380百万円(9%)増の4,532百万円となったことが挙げられます。

(注) ※1未収入金　主に未収附属病院収入が計上されています。うち2,273百万円が社会保険診療報酬支払基金、国民健康保険団体連合会への診療報酬請求等にあたり、5月末までには入金されるものです。

※2資産見返負債　資産見返負債とは、運営費交付金、寄附金、補助金等を財源として取得した資産については、取得時に資産と同額の「資産見返負債(それぞれの財源の名称)」を負債に計上し、その資産の減価償却相当額と同額を取り崩し収益計上にすることで収支均衡に作用する独立行政法人等の独特の勘定科目です。

※3未払金　業者等への3月末時点での支払未了額で5月末までには全額支払されるものです。(前年度は年度末竣工工事等が多数あり増加していました。)

損益計算書 要約

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにしています。
教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金や附属病院等の財源別に収益を示しています。

（単位：百万円）

費用の部	22年度	21年度	増減(22-21)
教育経費	298	324	▲26
研究経費	1,117	1,046	70
診療経費	9,562	8,587	975
教育研究支援経費	109	85	23
受託研究費	806	618	187
受託事業費	120	130	▲10
人件費	9,345	9,442	▲96
一般管理費	408	393	14
財務費用	358	364	▲6
経常費用合計	22,126	20,993	1,133
臨時損失	20	27	▲6
費用合計	22,147	21,020	1,126
当期総利益	724	797	▲73

収益の部	22年度	21年度	増減(22-21)
運営費交付金収益	4,976	5,603	▲627
授業料等収益	670	666	4
附属病院収益	14,817	12,906	1,911
受託研究収益	850	634	215
受託事業収益	119	136	▲16
寄附金収益	364	377	▲14
間接経費収入	103	77	26
施設費収益	37	14	23
補助金収益	164	372	▲207
資産見返負債戻入	578	286	292
財務収益	2	4	▲2
その他の収入	176	234	▲57
経常収益合計	22,861	21,313	1,547
臨時利益	1	350	▲349
収益合計	22,863	21,664	1,198
目的積立金等取崩額	8	154	▲146

【 経常費用 】

平成22年度の経常費用は1,133百万円(5%)増の22,126百万円となっています。

主な増加要因としては、研究経費が教育研究のための補助金の交付等があり、研究設備等整備を行ったことにより70百万円(7%)増の1,117百万円となったこと、診療経費が外来患者数等の増に伴う医薬品費及び診療材料費の増加により975百万円(11%)増の9,562百万円となったこと、受託研究費が受入増に伴う経費の増加により187百万円(30%)増の806百万円となったことが挙げられます。

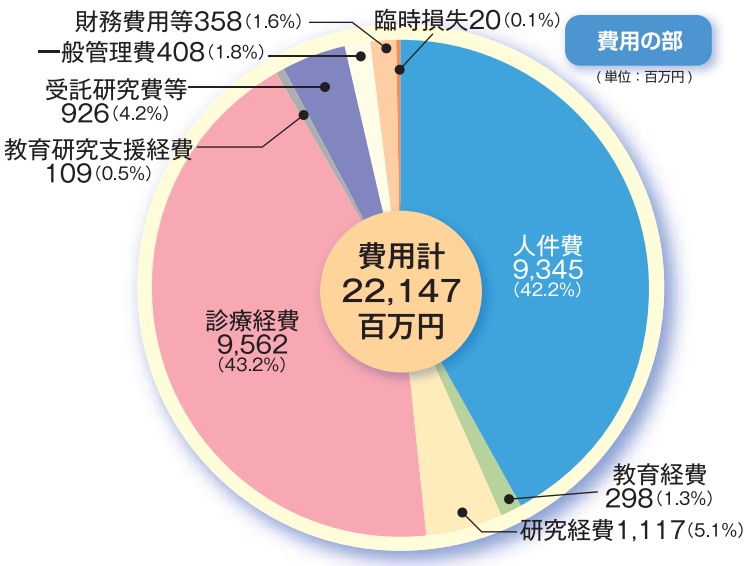
また,主な減少要因としては、人件費が報酬見直し等により96百万円(1%)減の9,345百万円となったことが挙げられます。

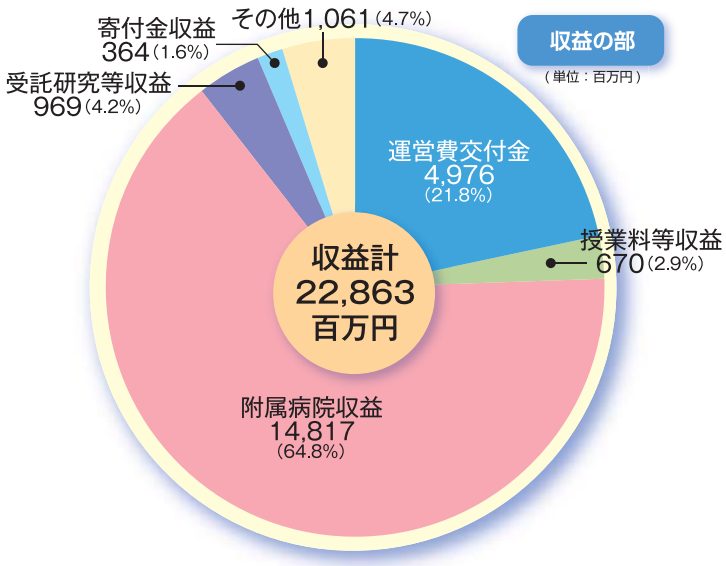
【 経常収益 】

平成22年度の経常収益は1,547百万円(7%)増の22,861百万円となっています。

主な要因としては、附属病院収益が外来患者数及び手術件数の増加とともに差額室料、各種加算等の算定増等により、1,911百万円(15%)増の14,817百万円となったこと、受託研究等収益が受入の増加により215百万円(34%)増の850百万円となったことが挙げられます。

※　貸借対照表,損益計算書の端数処理については、百万円未満を切捨てています。合計についても円単位で計算したものを端数処理して、百万円未満を切捨てています。





平成22年度 主な事業

運営費交付金等による国の支援のほか、職員の努力により外部資金及び病院収入等が増加した中で、効率的な運用を図ることにより下記のような事業を実施することができました。

教育に関する事業

1 医学科入学定員の増に伴う教育用設備の充実
2 看護学科・大学院の学習環境の改善
3 厚生補導施設や課外活動環境の充実
（部室の整備、野球場の改修、学生食堂・喫茶コーナーの整備等）
4 がん治療における人材育成を目的とした「がんプロフェッショナル養成プラン」
5 ポーランドのルブリン医科大学との学術交流協定を締結、交換留学を促進
6 助産師養成のためのネットワーク構築事業
7 大学教育・学生支援推進事業

3 部室

3 喫茶コーナー

研究に関する事業

1 重点研究や若手研究者を支援するため、プロジェクト経費を配分
2 研究棟6F及びB1Fを有効利用するため改修
○B1Fは実験実習機器センター内の共同利用分析機器等を集約・配置
○6Fは子どものこころの発達研究センター研究室、大阪大学・金沢大学との連合大学院教室、分子イメージング先端研究センター研究室を整備
3 共同利用研究機器として全自動細胞解析装置等を購入
4 子どものこころの発達研究センターによる教育研究事業
5 リンパ流の病態解析に基づいた新たな治療の開発と潜在的疾患の同定と予防のための研究事業
6 脳動脈瘤の発生・成長・破裂に関わる血流動態と血管機能の研究
7 地域産学官共同研究拠点整備事業に「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点」が採択
8 サイクロトロン棟を整備
9 地域産学官連携科学技術振興事業費補助金

3 全自動細胞解析装置

8 サイクロトロン棟

診療に関する事業

1 病院再整備事業として外来棟改修の工事契約を締結、4年計画の改修に着手
2 看護師、診療助教、薬剤師、放射線技師、検査技師の増員
3 医師,看護師の業務の軽減、処遇改善を図るため、高度医療指導手当、専門看護師手当を新設
4 高度な医療に対応できる体制を整備するため、PET−CT棟を整備
5 3テスラMRI装置、O−armポータブルCT装置を導入
6 補助金事業・受託研究事業として、
○感染症対策特別促進事業費・肝炎専門医療従事者研修事業
○がん診療連携拠点病院機能強化事業
○治験拠点病院活性化事業
○静岡周産期医師長期支援プログラム
○大学病院業務改善推進事業　等

4 PET-CT 棟

5 3テスラMRI装置

平成22年度国立大学法人会計基準の主な改訂等

◎資産除去債務の会計処理

企業会計基準(一般)と同様に改訂となった「資産除去債務」の会計処理を行っています。
※アスベスト建材の除去やPCB廃棄物の処理等は法令上の義務があり,将来の除去費用を事前に負債計上しています。

◎附属病院セグメントにおける収支の状況

財務省からの申し渡し事項として、附属病院の経営状況が財務諸表だけでは十分判読できないとあるため、事業報告書において附属病院の収支状況を示しています。

◎目的積立金の使途をより明確に開示

会計検査院の決算検査報告において、目的積立金の使用が中期計画等に則しているか確認できないと指摘があり、附属明細書の様式を平成23年度から変更し、明細を事業名ごとに示すこととなりました。

あとがき

浜松医科大学理事
(財務・病院担当)
瀧川 雅浩

財務レポートをお読みいただきありがとうございます。
これまでのレポート同様、大学及び病院の事業計画、経営状態を透明度の高いかたちで示しております。

平成22年度から第Ⅱ期中期目標・計画が始まりました。第Ⅰ期に成し遂げた事業をさらに拡大・発展させるべく、様々な目標・計画を立て、実施していきたいと思います。
附属病院では、患者さんへの最良の医療の提供を心がけていく所存です。そのためには、医療従事者が充足感を感じられるような、働きやすい職場を目指さなければなりません。病院のスタッフから様々なご意見をいただき、硬軟両面で改善を図っていきたいと思います。
また、地域医療体制の拡充、医療福祉支援の充実、救急医療、周産母子センターの整備等も進めていきます。
平成23年度から、外来診療棟の改修が本格的に始まります。患者さん、職員の皆さんには、多方面で、ご迷惑をおかけいたしますが、ご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

※本レポートに関連する資料は,浜松医科大学ホームページにて開示しています。
■中期目標・中期計画,年度計画
http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_chukimokuhyo.html
■財務諸表、事業報告書等
http://www.hama-med.ac.jp/uni_introduction_report_hjyouhou.html

国立大学法人浜松医科大学
財務レポート2011
発行:国立大学法人浜松医科大学会計課
〒431-3192　静岡県浜松市東区半田山1丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代)
http://www.hama-med.ac.jp